

平成 30 年 2 月 20 日

JACS 年報（第 1 報）

京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野  
村木優一

調査期間：2010 年から 2016 年

調査対象：JACS へ 2017 年 9 月 25 日までにデータを入力し、進捗状況を完了としている医療機関

除外条件：データの進捗状況を完了としていない施設。使用量が中央値の 5 倍以上多い医療機関

1. 2010 年から 2016 年における注射用抗菌薬の使用量推移

データ入力完了となっていた医療機関における AUD、DOT、AUD/DOT の推移について図 1 に示す。AUD の中央値は経年的に増加傾向を示しているものの、DOT の中央値は変動は少なかった。また、AUD/DOT が増加傾向を示していた。これらのことから、1 日使用量の増加あるいは投与患者数の増加や投与日数の低下が推察される。一方、AUD、DOT の値にばらつきが多く、0 を含む医療機関や、除外せざるを得ない値もあったため、データ入力者によるミスの値も含まれる可能性が示唆された。表 1 にそれぞれの年における数値を示す。

表 1 2010 年から 2016 年までの注射用抗菌薬の総使用量の推移

総使用量						
AUD	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	15.8	12.4	18.2	0.0	27.2
	2011	16.5	12.8	19.6	0.1	35.3
	2012	16.9	14.3	20.1	0.0	43.2
	2013	17.9	14.0	21.1	0.1	40.0
	2014	16.9	12.0	20.7	0.0	44.7
	2015	18.4	13.5	22.4	0.0	49.6
	2016	20.0	13.2	24.6	1.7	50.1
DOT	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	20.5	17.0	25.3	0.0	30.4
	2011	21.1	18.7	25.3	0.1	31.2
	2012	22.5	19.4	26.0	0.1	32.3
	2013	21.7	17.0	25.3	0.0	49.5
	2014	20.4	11.6	24.3	0.3	51.9
	2015	20.9	16.5	25.1	0.0	35.7
	2016	22.7	13.1	26.2	0.0	44.6
AUD/DOT	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	0.7	0.7	0.8	0.5	1.3
	2011	0.7	0.7	0.8	0.6	1.1
	2012	0.8	0.7	0.9	0.4	2.8
	2013	0.8	0.7	0.9	0.0	2.2
	2014	0.8	0.7	0.9	0.0	2.2
	2015	0.8	0.7	1.0	0.0	3.6
	2016	0.9	0.7	1.0	0.0	2.4

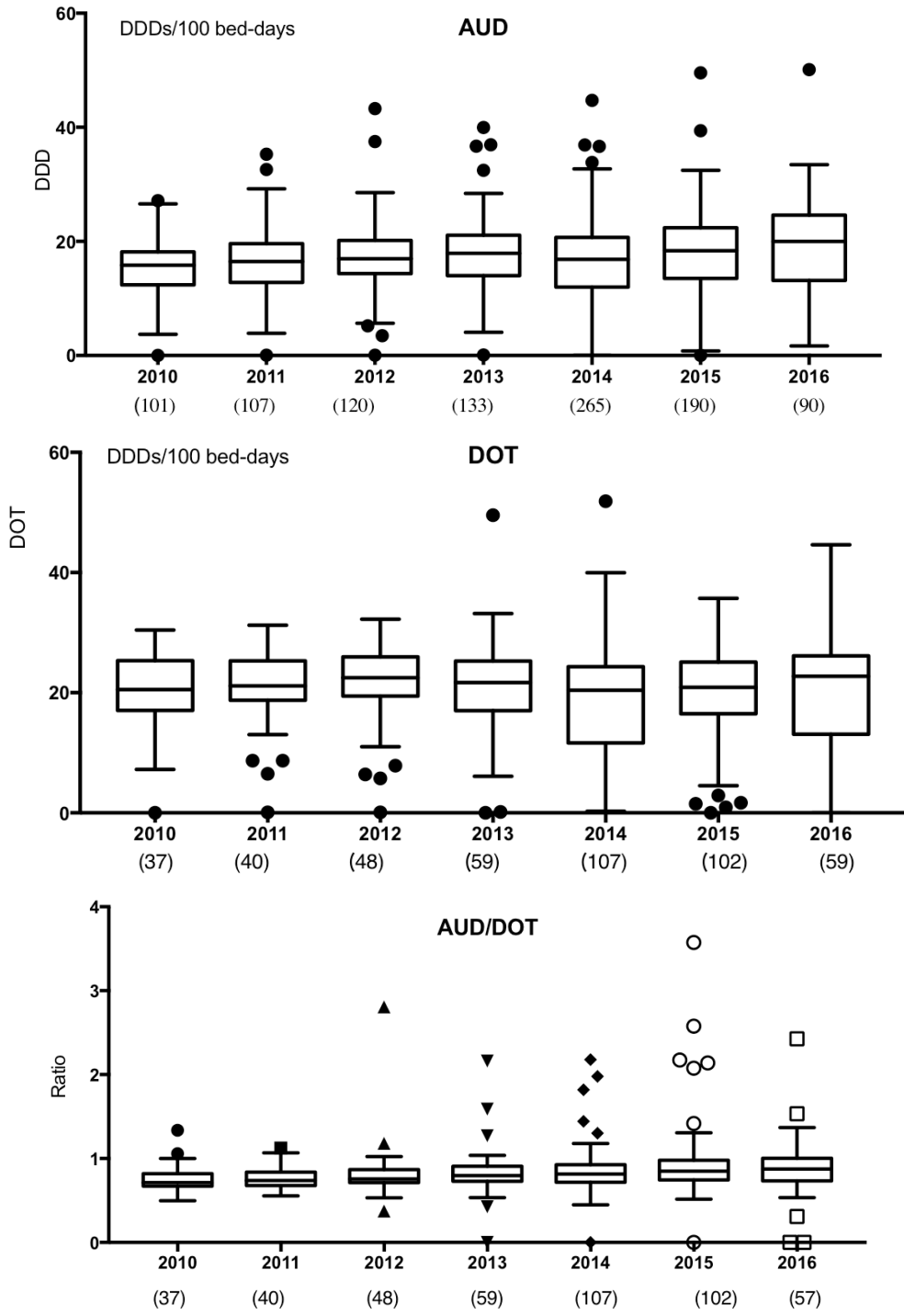


図 1. 2010 年から 2016 年までの注射用抗菌薬の総使用量の推移  
括弧は集計施設数を示す。

## 2. 抗緑膿菌作用薬が全体の使用量に占める割合の推移

安易な広域抗菌薬の濫用は耐性化に影響することから、カルバペネム系薬、キノロン系薬、広域ペニシリン系薬（ピペラシリン・タゾバクタム）、第4世代セファロスポリン系薬、セフトアジジムを抗緑膿菌作用薬と定義し、全体の使用量に占める割合を図2に示す。2010年と比較し、抗緑膿菌作用薬の占める割合はAUD、DOT共に減少傾向を示していた。ICTやASTによる広域抗菌薬への積極的な介入により濫用されることなく適切に使用されていることが推察される。

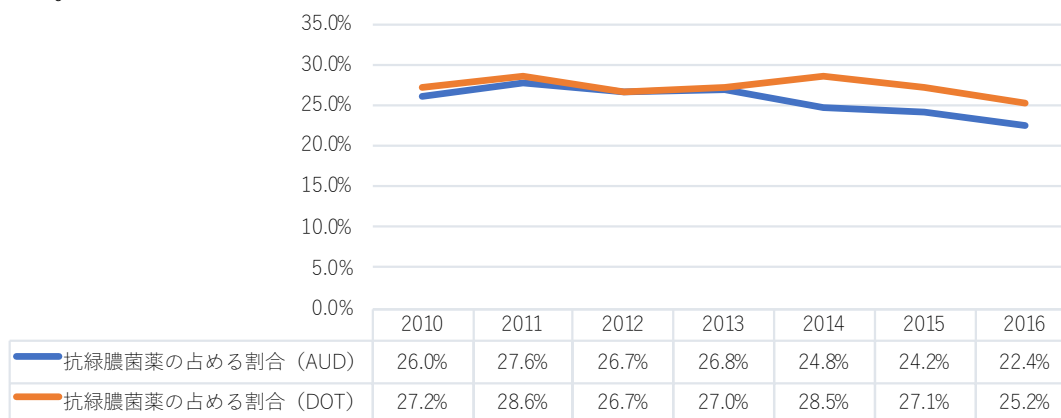


図2 抗緑膿菌作用薬が全体の使用量に占める割合の推移  
各年におけるAUDやDOTの中央値を全体の使用量の中央値で除して割合を算出した。

## 3. 抗MRSA薬における使用量の推移

抗MRSA薬における使用量の推移を表2に示す。抗MRSA薬のAUD、DOTは共に減少し、AUD/DOTは変動していないことから使用量、使用日数共に減少していることが示唆された。一方、各抗MRSA薬の使用割合は、2012年に上市されたダプトマイシンの比率が増加し、テイコプラニン、アルベカシンが減少、バンコマイシンはほとんど変化を認めなかった(図3)。一方、各抗MRSA薬のAUDの推移は、バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシンの使用が減少しており、ダプトマイシンやリネゾリドといった薬剤の選択肢が増えたことにより治療成績の向上が推察される。また、MRSA分離率が低下しているといった背景も影響していることが考えられた。

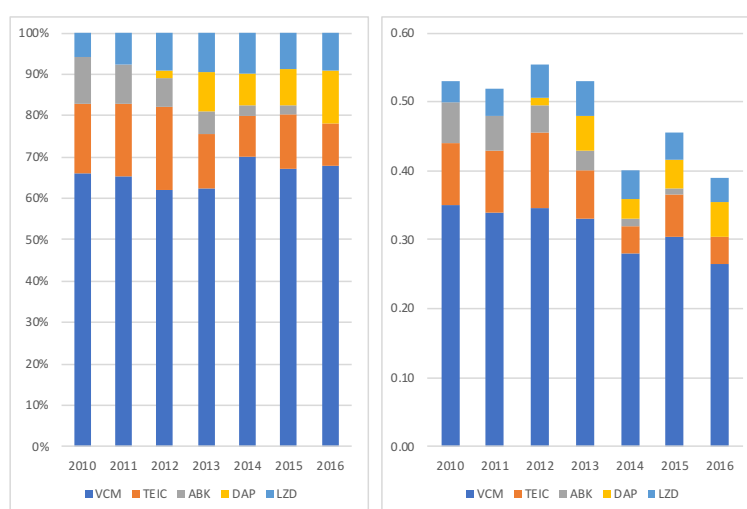


図3 抗MRSA薬のAUD比と推移  
(左図) 抗MRSA薬のAUD(中央値)の比率を示す。(右図) AUDの中央値の経年推移

表 2 2010 年から 2016 年における抗 MRSA 薬の使用動向

抗 MRSA 薬の使用量						
AUD	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	0.7	0.3	1.2	0.0	2.9
	2011	0.7	0.3	1.3	0.0	5.2
	2012	0.8	0.4	1.2	0.0	2.4
	2013	0.7	0.4	1.2	0.0	2.8
	2014	0.6	0.2	1.1	0.0	4.5
	2015	0.6	0.3	1.1	0.0	3.1
	2016	0.5	0.3	1.0	0.0	3.8
DOT	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	0.9	0.5	1.6	0.0	4.1
	2011	1.0	0.5	1.8	0.0	3.6
	2012	1.1	0.6	1.7	0.0	2.8
	2013	0.9	0.5	1.6	0.0	3.1
	2014	0.7	0.3	1.4	0.0	3.6
	2015	0.8	0.3	1.3	0.0	3.5
	2016	0.7	0.3	1.1	0.0	3.2
AUD/DOT	年	中央値	Q1	Q3	最小値	最大値
	2010	0.8	0.6	0.8	0.0	3.2
	2011	0.7	0.7	0.9	0.0	3.0
	2012	0.8	0.7	0.9	0.0	3.2
	2013	0.8	0.7	0.9	0.0	2.2
	2014	0.8	0.6	0.9	0.0	5.0
	2015	0.8	0.7	0.9	0.0	3.1
	2016	0.8	0.6	0.9	0.0	5.2

各医療機関における抗 MRSA 薬の AUD を合計した値について中央値、25、75 パーセンタイル値、最小値、最大値を求めた。

#### 4. 各系統における AUD、DOT、AUD/DOT の推移

2010 年から 2016 年における各系統の AUD、DOT、AUD/DOT 推移を表 3、表 4、表 5 に示す。





